日本の鶏卵事情

日本の一人当たりの卵消費量は世界第２位です。（年間約 330 個、メキシコ 350 個）
１億７千羽が飼育され、ほとんどが大規模経営で、羽数はここ 20 年で約３倍に増えています。

1991 年 15,855 羽　→　2011 年は 46,878 羽（一戸平均）

採卵鶏のほとんどがバタリーケージで飼育されています。

バタリーケージとは、ワイヤーでできたケージの中に鶏を 2～6 羽入れ、それを何段かに重ねて飼育する方式です。
周りをすべて金網で囲まれ、何もありません。
卵が転がりやすいよう、ケージは傾斜しています。
鶏 1 羽あたりの平均スペースは 470cm²程度、羽ばたきや羽づくろいもできない広さです。
ちなみにこの用紙 A4 ｻｲｽﾞは 624 cm²です。

ひよこは雄雌の鑑別をされ、雄は二酸化炭素やシュレッダーでつぶされ殺されます。（一日 50 万羽）
雌はケージ内でつつき合いをしないように、雛の時にくちばしを切られます。
くちばしの切断は無麻酔で行われ、くちばしの表面の角質層と骨の間には神経と血管の通ったやわらかい組織があり、切断時には出血し痛みで苦しみます。

エサには安価な配合飼料（遺伝子組み換えあり）が使われ、着色料や抗生物質、抗菌剤、ホルモン剤などが与えられます。
ケージ内で１年ほど卵をうみ続けた鶏は廃鶏と呼ばれ､肉がかたくて正肉利用には適さないことからミンチにされ、ハンバーグやハムなどの加工品、レトルト食品、スープの素にされます。

海外ではバタリーケージでの飼育は禁止されています。

2012 年１月１日、ヨーロッパ連合（EU）では鶏のバタリーケージが禁止され、平飼い・エンリッチドケージ（自由に遊べる）への移行が義務付けられました。
さらにこれに続く形で、オーストラリア、タスマニア州でも（動物愛護の観点から）バタリーケージの段階的廃止が決定されています。